

## 9人のスーパープレゼンター 2023

### 柴崎教養ゼミ・TED セミナー

#### 発表内容に興味を持つことの大切さ

教養演習の1年間を通じて、発表内容への興味の大切さを強く感じました。

授業を受けながら、準備の重要性は当然のこととして身に染みていましたが、その準備にはプレゼン内容への興味が重要だと気づきました。個人的には、春学期のTEDを活用した発表はプレゼンのイメージを掴むのに役立ち、みんなとの討論も楽しかったのですが、秋学期の自由テーマのプレゼンの方がより魅力的でした。自由なテーマのおかげで、みんなが自分の興味や好みに基づいて発表し、それが活気あるプレゼンにつながりました。参加者が自分の発表に熟知しているため、内容が濃厚で学びが多かったし、積極的に話す人が多かったので、ますます聞きたくなる気持ちになりました。

春学期からの経験が影響しているかもしれませんが、私も自由テーマのプレゼンの方がうまくいったと思います。秋の自由テーマでは、趣味や価値観について話しました。したがって、春のTEDよりも知識があり、日常的に考えている内容だったので、伝えやすさを考えながら準備することができました。興味があることだからこそ、準備が楽しくなり、より良い発表に向けて努力する気持ちになり、準備が負担になりませんでした。

発表は準備の質が反映されると考えるので、準備段階で没頭したり楽しんだりすることは、全体の発表にも効果的だと思います。

この教養演習では、自由プレゼンだけでなく、TEDの内容も自由に選ぶことができましたが、将来的には常にそうとは限りません。興味のないことや考えたことのないことについても発表しなければならない場面があると思います。しかし、そのような場合でも少しでも興味を持てる内容を選ぶか、興味を持つ姿勢を心がけることで、良い準備、良い発表につながると思います。

また、授業が進むにつれて、参加者の個性が少しずつ現れ、様々な発表を聞くことができ、1年間とても楽しかったです。みんなが色々なことを考えながら大学生活を送っている姿に刺激を受けました。また、30分以上1人で内容を考えて発表するという

経験はあまりなかったもので、教養演習でそのような機会を得て、以前よりも発表への抵抗感が減ったと思います。これからもこの授業で得たことを活かしていきたいと思います。

#### この一年間で学んだこと

私は、プレゼン力の向上を目指してこの教養演習に応募しましたが、実際に参加してみて、思っていた以上に多くのことを学ぶことができました。

まず、これまでの中学や高校生活ではプレゼンについてあまり考える機会がなかったため、「良いプレゼン」とは、言葉が詰まったりミスがないプレゼンであり、自分が恥をかくことなく話せば、後は何も気にしなくても伝わるという漠然とした認識しかありませんでした。しかし、実際にプレゼンを作成し、リハーサルの動画を確認すると、自分でも伝えたいことが何か、どこが重要なかがわからないプレゼンになっていることに気づきました。

そこで、自分の伝えたいことを簡潔に分かりやすく説明するにはどのような順番で話すべきか、聞き手の興味を引き続けるためにどのように話すべきかといった工夫を凝らしながらプレゼンの構成を考えるうちに、「良いプレゼン」を作るには思っていた以上に考えることが必要であり、常に創意工夫を凝らす必要があることを実感しました。

また、プレゼンの題材を探す際には様々なTEDを調べる必要があったため、これまで自分でTEDを調べるのが少なかった私にとっては新しい知見を得る機会となりました。

最後に、他の発表者のプレゼンを多く聞いたことが大きな学びでした。TEDのプレゼンを引用してのプレゼンでは、構成自体は元のTEDと似たものが多かったですが、スライドの作り方や導入の方法など、様々な要素で個性が出ており、新しい表現方法に触れることができました。また、プレゼン後に全員で発表する機会が設けられていたため、自分にはなかなか気付かない改善点を他のメンバーからの論評で知ることができ、それをフィードバックして自分のプレゼンを改善することができました。

この教養演習で学んだことを活かし、今後もより良い発表ができるように努力していきたいです。

## プレゼンで学ぶ会話力

柴崎先生の教養演習を1年間受講し、学んだことは私が今まで人に話が伝わらなかった理由でした。初回のプレゼンでは、受講生と先生から「話す速度が速い」と指摘されました。2回目のプレゼンでは、話す速度を落とした結果、皆から好評を得ました。

私は高校で3年間過ごす中で、人前でのプレゼンや人との会話という経験がありませんでした。そのため、教養演習に取り組む際には、聞き手に情報を伝える方法について全くの未経験でした。初回のプレゼンでは、聞き手にわかってもらうために多くの情報を伝えることが大切だと考えていました。しかし、実際のプレゼンを通じて、それが誤りであることを知りました。

プレゼンで伝えたいことは、聞き手が何の知識も持たない事柄であることが一般的です。また、わかりやすさを求めて詳細な情報を入れると、話す量が多くなりすぎます。その結果、聞き手は情報を高速で理解しなければなりません、人間にはその限界があります。少量の情報しか理解できない聞き手は、プレゼンの内容を理解できないことがあります。

私は、プレゼンで情報を伝えることよりも、自分の考えを述べることに満足していました。しかし、プレゼンは聞き手との交流が重要です。そのため、自己中心的な発言は避けなければなりません。私の話が伝わらなかったのは、自己中心的な話し方をしていたからです。他の受講生のプレゼンを聞き、自分でプレゼンを発表することで、相手の立場に立つことの重要性を理解しました。私自身も、難しい内容のプレゼンを聞いて、その内容を十分に理解できない経験がありました。そのような経験から、聞き手に十分に理解できるように配慮することが重要であり、良いプレゼンの秘訣だと学びました。

## プレゼンのためにプレゼンをするな

「一年を振り返る」ということで、一年前に書いた本教養演習の志望動機に、久しぶりに目を通した。そこで目を引いた文章の内容が、「聴衆の興味、関心を真にひきつけ得るプレゼンスキルを獲得し、向上させたい」というものだった。

志望動機を作成した当時は疑問に思わなかった文章だが、一年経過した今では、これが誤解を含んだ

結果生まれた文章だと断言できる。その誤解は、「聴衆が真に興味・関心をその発表に寄せるとき、その発表で輝いているものは発表者のスキルではない」ということである。もちろん、人前に出ることが本業の役者や司会者をつとめた経験があるならば、内容がどんなものであれ聴衆の興味・関心はそそられるのかもしれない。私が初回の発表で紹介したTED動画がまさしくそれにあたる。

しかし、TEDには役者経験がなくとも興味深いプレゼンを仕立てる発表者が大勢いる。彼らが持つ、聴衆の興味・関心を真にひきつけ得る力とは、伝えたいという純粋な気持ちである。ここでいう伝えたいという純粋な気持ちとは、一週間後に迫るプレゼンのために資料を探し、その資料の中で特に「これを伝えたい」と思う気持ちのことではない。むしろ、プレゼンのことは頭の隅にでも追いやって、自分が知りたい・興味があると感じたことについて資料を探し、「自分が詳しくなったついでに他の人にも教えてやるか」と思う気持ちのことである。

このやる気のなさそうな気持ちの肝心なところは、「正直プレゼンはどうでもいい」と思っているところである。私は大体のプレゼンにおいて、自分で選んだテーマに沿った構成を組み立ててから、そのテーマについて調べていた。これはプレゼンをするということが念頭にあるのでよろしくない。では私が唯一手ごたえを感じた発表である、日本酒プレゼンはどうだったか。このプレゼンは、「なぜ日本酒はこんなにもうまいのか、日本酒について知識を得たい」という気持ちのついでに生まれたものである。この調査では、プレゼンに仕立て上げるための効率性を一切度外視して、まず書籍を購入し、粗方知識を蓄えてから実際に飲んだことのある日本酒や日本酒雑学についてインターネットでより詳細に調べた。そうして調べつくしたところで、「日本酒についてこれだけ詳しくなったのだから、プレゼンに仕立ててやるか」とはじめてプレゼンのことを思い出したのである。

このようにして蓄えられた知識は通常よりはるかに多いため、内容の密度は高くなる。知識の偏りも抑えられているため、発表の構成に幅が見られる。より詳しく知りたいと感じるため、内容に発展性が出る。そして、自身がその知識を得て理解したときの感動を他の人に伝えたいという気持ちが強くなる

ため、聴衆に寄り添った内容になりやすい。

一年間、本教養演習を通して私が得られた重要なもの。それはスキルではなく、「プレゼンのためにプレゼンをするな」という考えだという気がしてならない。

### 教養演習を振り返って

柴崎先生の教養演習を1年間受講し、学んだこと、および今後の課題について述べていきます。

まず、この1年間で学んだプレゼンテーションの能力は2つあります。1つ目は、スライドに大量の情報を詰め込むのではなく、情報を簡潔にまとめることの重要性です。以前、高校でのプレゼンテーションでは、スライドに多くの文字を詰め込んでいましたが、これでは聴衆の理解が深まりませんでした。情報量を減らすことで、聴衆はプレゼンターの話に集中しやすくなります。

2つ目は、写真や動画などのイメージの重要性です。言葉だけでは物事をわかりやすく伝えるのは難しいため、視覚的な要素が重要です。イメージを使用することで、聴衆は内容をより理解しやすくなります。これらを組み合わせることで、プレゼンの効果をさらに高めることができます。

次に、今後のプレゼンテーションで克服すべき課題について考えます。まず、話す速度が上げられません。私は普段早口になりがちであり、プレゼン中も同様の傾向がありました。しかし、速すぎる話し方は聴衆に内容が伝わりにくくなるため、ゆっくりと話す練習を重ね、改善していきたいと考えています。

次に、スライドのデザインに関する課題です。以前は文字の大きさや配置に注意していましたが、色の使い方や図や写真の選定については考慮が足りませんでした。他の人のスライドを参考にすることで、見やすく理解しやすいデザインの工夫を学びました。

この教養演習を選んだ理由は、自らのプレゼンテーション能力を向上させたいという思いからです。最初は話の上手さが重要だと考えていましたが、視覚的なアプローチの重要性を学びました。これらの経験を活かし、今後のプレゼンテーションで成果を上げていきたいと思います。

### 自信を持つことの大切さ

この授業を受けて一番感じたのは、自信を持って

発表することの重要性です。一年間の授業で計4回のプレゼンを経験しました。技術的な側面はもちろんですが、その中で最も自覚したのは自信でした。また、それと同時に、自信を持ってプレゼンすることの重要性を強く感じました。

次に、自信を持って発表することの重要性に関する私の考えを四つ挙げさせてください。まず一つ目は、自信を持って伝えることで、自分の意見や考えを明確に伝えられる点です。このような発表は聴衆にも自信を与え、メッセージがより効果的に伝わります。二つ目は、聴衆に対する信頼性を高める点です。自信を持って発表することで、聴衆に信頼を与えることができます。自分の知識や経験に自信を示すことで、聴衆は真剣に受け止めることができます。三つ目は、プレゼンテーションの自己表現力を向上させる点です。自信を持って発表することは、自己表現力を高めるための重要な要素です。自分の意見や考えを明確に表現できるため、プレゼンテーションの質を向上させることができます。四つ目は、プレゼンテーションの成功につながる点です。自信を持つことは、リラックスしてプレゼンできることを示し、聴衆を引き付けることができます。その結果、プレゼンテーションの目的を達成できます。

以上の理由から、自信を持って発表することは非常に重要です。自信を持つためには、事前の準備や練習が必要ですが、その努力は確実にプレゼンテーションの成功につながると考えます。

この一年間を振り返って、この授業を受けて本当に良かったと感じています。最初は友達の勧めで興味本位で受講しましたが、自分の成長を実感しました。プレゼンを通じて自分の意見や考えを表現する力が身につき、他の人のプレゼンを聞くことで新しい知識や視点を得ることができました。今後も積極的にプレゼンの機会を活かしていきたいと思います。

### 授業を通して学んだこと

春学期と秋学期の教養演習を通じて学んだことが2つあります。

一つ目は、プレゼンテーションにおけるパワーポイントの資料の作り方です。以前、サークル活動で資料を作成する機会が多かったのですが、この授業を受ける前は、資料に全ての情報を詰め込み、凝ったデザインやアニメーションを加えることが良いと

考えていました。しかし、この授業を通じて、プレゼン資料は必要最低限の情報を掲載し、視覚的に補足が必要な場合にのみ使用するべきだと気づきました。資料が主役ではなく、伝える力に重点を置き、資料はプレゼンを補助する道具であるべきだと理解しました。

二つ目は、自分の伝えたいことを相手に端的に伝える方法です。授業内では時間制限があったため、適切な時間内に伝えることが求められました。好きなテーマを扱うと、時間を気にせずに長く話してしまうことがありましたが、過不足なく伝えるためには時間の管理が重要だと学びました。特に最後の10分間スピーチでは、決めたテーマを十分に伝えるために苦戦しましたが、内容を練りながら時間内にまとめることができました。

この1年間の授業を通じて、自分のプレゼンテーションスキルが大幅に改善されたと感じています。毎週他の人のプレゼンを聞き、良い点を吸収して自分に取り入れることができ、自分のプレゼンを定期的に見直す機会も持てたことは良かったです。

### 新たな発見

一年間、柴崎先生の教養演習を受講して、自分の知識が広がり、さらに様々な考え方を身につけました。大学に入学し、履修登録を進める中で、シラバスを見て最初に目についたのがTEDという文字でした。以前に英語の授業でTEDトークの動画を何度か見た経験があり、その興味からこの教養演習に申し込みました。単純な動機でしたが、この授業を通じて多彩な学びを得ることができました。

自分が担当者としてプレゼンをする際は、TEDトークの内容を自分なりにまとめ、要点を解説して伝えることが求められました。どの部分を取り上げて説明すれば聴衆によく理解してもらえるか考えたり、原稿ではなくポイントを書き出して話す練習をするなど、新たな経験をしました。一つのプレゼンを準備する過程で何時間も考える苦労や難しさを実感しました。

この授業では、担当者が発表した後に決められたテーマでディスカッションが行われました。5人ずつの2グループに分かれ、司会進行するファシリテーターが決められて行われました。以前は自分の意見を述べるのが怖く、グループでいるときは発言で

きないことが多かったのですが、この授業ではメンバーが相互に感じたままを話し合い、お互いの考えに共感し合い、非常に発言しやすい環境でした。一人ひとりが意見を求められる中で、考えがまとまっていなくても考えを共有することで、話が盛り上がり、自分の頭の中が整理されたり、意見が活発になったりしました。周囲の影響を受けて、恐れずに自分の考えを表現し、共有することができるようになりました。この授業からの大きな学びは、自分の考えに自信がなくてもそれを共有できること、そして自分の意見が広がっていく喜びを知ることです。

一年間の授業で得たことは言葉では表せないほど多く、自分の成長に繋がる機会でした。この経験を自信に変え、今後も大学生活をより成長させていきたいです。先生や授業のメンバーに感謝しています。

### 伝え方の工夫

TEDを基にしたプレゼンテーションの講義を通じて、人に効果的に伝える方法を学びました。最初の時点で、プレゼンをする際には分かりやすいスライドが重要だと考えていました。色や文字の大きさ、写真や図の使用など、スライドの工夫に重点を置いていました。しかし、何度かプレゼンを行い、他の人の発表を見た結果、スライドは補助的なものであることに気づきました。今では、口頭での説明が最も重要であり、スライドはその補助として要点を示す役割があると理解しています。これを踏まえて、自分のプレゼンではキーワードを意識するようになりました。要点を示すフレーズをスライドに用いることで相手に伝わりやすくなるだけでなく、自分自身も話しやすくなると考えています。大学生活で得た「発表」の経験を、社会で役立つスキルに変えることができる貴重な経験でした。

また、他の人のプレゼンから多くを学びました。特に自由プレゼンでは、聞き手に身近さを感じさせることが重要だと感じました。身近なテーマは理解が深まりやすく、聞き手も積極的に理解しようとする傾向があります。プレゼンターが話し手側からだけでなく、聞き手側からの共感を引き出す工夫が重要だと感じました。

さらに、プレゼン中に相手に問いかける時間を設けることも有効だと思いました。プレゼンは一方的になりがちですが、相手との意思疎通が豊かになる

ことでプレゼンがより良いものになると考えます。

最後に、この講義で人前で堂々と話す力を身につけました。この力は経験を積むことで得られるものであり、学生時代に獲得できたことは社会で役立つと感じます。